

結(ゆい) 第 22 号

発行 関西ねじ協同組合 広報委員会

〒537-0025 大阪市東成区中道 3-15-16 毎日東ビル TEL06-6974-0531 FAX06-6975-2181

E-mail info@kansaineji.com

URL <http://www.kansaineji.com>



盛況だった新春合同互礼会会場

関西ねじ協同組合と大阪鋌螺卸商協同組合との「新春合同互礼会」が1月11日、大阪市中央区「シティプラザ大阪」において開催された。関西ねじ協同組合から正会員・賛助会員合わせて131社・232名、大阪鋌螺卸商協同組合からは79社・96名が参加。

近畿経済産業局や大阪府など行政及び関係諸団体からの来賓を含め、総勢348名が出席して盛大に新年の門出を祝った。



新たな変革を求められる年に

関西ねじ協同組合

理事長 箕 村 理
(株)ダイロックス

平成24年3月を迎え、本年度の関西ねじ委員会事業を締めくくる時期になってまいりました。この1年を振り返ると、東日本大震災、台風12号による紀伊半島地域の土砂災害、タイ国アユタヤ、バンコクの水害の話は避けて通れません。被災された方々及び企業に対して、あらためてお見舞い申し上げると同時に、復興に向けた強い姿勢に敬意を表させていただきます。関西ねじ協同組合にも、これらの自然災害の影響を被られた企業様が少なからずおられると思います。来年度以降、復興に向けて力を結集していきたいと思います。

世界経済に目を向けると、EU諸国及びアメリカの景気後退がアジアの経済情勢に悪影響を及ぼしております。このような袋小路に陥ってしまうかのような現状ですが、それぞれの組合員企業様の創意工夫をもって切り抜けて行ってもらいたいと思います。

関西ねじ協同組合資格制度委員会及び六角ボルトナットJIS検討協議会の各委員会活動からスタートした案件が、本年度は全国レベルの(社)日本ねじ工業協会に舞台を移し、それぞれ国家技能検討制度構築と2014年JIS改正に向けての活動となって検討が進められております。これらの事業が関西発の事業として身を結ぶことは、ねじ業界としては革命的なことであり、後世に残る業界財産となり、我々関西ねじ協同組合として誇れることであります。

本年は、新年会を大阪鋳螺卸商協同組合と合同で来賓の方々も含めて、223団体348名の参加のもと、盛大に開催することができました。本年は、大阪の府政、市政の変革元年でもあります。関西発ねじ業界の活性化を大いに期待したいと思います。新年度は、いかなる委員会構成で臨むか現在検討中です。関西ねじ協同組合の委員会活動も一つの節目を越えて、新たな変革を求められる年となります。組合員皆様の利益に貢献できる委員会を発足できるよう各理事とも最大限努力しております。今後とも組合活動に対する皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

総 務 委 員 会

平成24年 合同新春互礼会

委員長 池 田 裕 之
(池 田 金 属 ㈱)

平成24年 1 月11日、シテイプラザ大阪 2 階「旬の間」にて、大阪鋳螺卸商協同組合との合同新春互礼会が開催された。

大鋳協総務委員長の桂知伸氏の司会のもと両組合の代表者の挨拶で幕を開けました。

関西ねじの理事長・箕村理氏は、挨拶の中でお正月に読んだ小説『下町ロケット』を引き合いに出し、仕事を生活の為だけではなく、プライドや夢を持って今年も皆様と共に歩んでいきたいと挨拶した。次に、体調不良で欠席した大西理事長に代わり、大鋳協の小林三洋副理事長が理事長挨拶を代読、商と工の連携を強化して、ねじ産業の発展に微力ながら努力していきたいと述べられました。

続いて、近畿経済産業局製造産業課長の福崎文伸氏、大阪府商工労働部商工支援室ものづくり支援課の領家誠氏、日本ねじ商業協同組合連合会会長の由良豊一氏、3 名のご来賓の祝辞が紹介されました。

次に、大鋳協の新年恒例行事の当たり歳への記念品贈呈があり、10名の辰年生まれを代表して㈱ホンダ鋳螺製作所・本田裕久氏が謝辞を述べた。このあと社団法人日本ねじ工業協会会長の竹中弘忠氏の乾杯のご発声により 2 年に 1 度の和気あいあいの祝宴が始まりました。盛大な宴のなか、参加者それぞれが新年の挨拶や、ねじ業界の情報交換を行い、和やかな懇親会となりました。

宴半ばでは、両協同組合の若手経営者で組織する O S 会、K-2 の幹事 6 名が紹介され O S 会代表幹事㈱梅田精密・梅田真吾社長、K 2 会代表幹事㈱巴製作所・豊田裕司社長がそれぞれ今年の抱負を述べられました。

そして宴もたけなわのなか、我らが関西ねじ若手のホープ、大鋳協10名の歳男にも負けない関西ねじ歳男を代表し、北井啓之副理事長のユーモアいっぱいの閉会の辞のあと、同氏のお父様ゆずりの大阪三本締めを合図に散会となりました。

互礼会の参加者は以下の通りです。

大鋳協	79社	96名
関西ねじ 正会員	84社	133名
関西ねじ 賛助会員	47社	99名
来賓・ご招待者	7 団体	12名
その他		8名

合計210社348名と過去最高の記録となりました。

皆様のご協力に感謝致します。



関西ねじ協同組合
箕村 理 理事長挨拶



大阪鋌螺卸商協同組合
小林三洋副理事長挨拶



来賓挨拶
近畿経済産業局 製造産業課
福崎文伸氏



来賓挨拶
大阪府商工労働部 商工振興室 領家 誠氏



来賓挨拶
日本ねじ商業協同組合連合会 由良豊一会長



大阪鋸螺卸商協同組合の年男一同



乾 杯
(社)日本ねじ工業協会 竹中弘忠会長



K-2・OS会の幹事一同と
挨拶するK-2代表幹事の豊田裕司氏



閉会の辞 関西ねじ協同組合
北井啓之副理事長

研究開発委員会

スガウェザリング学術講演会にて活動成果発表を行いました！

委員長 大 場 康 弘
(株 コ ケ プ)

研究開発委員会では技術顧問の佐藤幸弘先生が去る12月1日に大阪国際会議場で開催されたスガウェザリング学術講演会にて「新規な腐食促進試験条件による建築用ねじの腐食寿命の評価」と題し講演を行いました。今回はこの講演会についてご報告したいと思います。

財団法人スガウェザリング技術振興財団は、スガ試験機株式会社の後援によって1981年に設立され、金属を含む各種材料や製品の耐腐食性、老劣化性などの”ウェザリング技術”の振興を図ることを目的とした財団法人です。

約300名を超える出席者が集まった今回の第54回目大阪講演では、終日にわたり7名の講演者によって「未来を担うウェザリング技術」をテーマとして講演が行われましたが、その1つとして関西ねじ協同組合が講演を行いました。

講演では、屋外で使用される金属材料の耐食性評価を行う腐食試験方法は幾つかあるものの国内の使用環境においては相関性に課題があること、協同組合で研究に取り組むこととなった背景や、日本を中心とした東アジア全体の環境データを紹介しました。さらに、屋外曝露試験を行った各地点・各試験片、そして試験結果を説明し、続いてFCK法の試験条件と試験結果を説明しました。最後に屋外曝露試験とFCK法を用いた屋内加速試験との相関性の解説を行い、講演を閉じました。

講演後のアンケートでは、「中国内陸部で自動車の腐食が問題になっていたが、本日の講演で日本国内と腐食スピードが段違いと分かり参考になった」「塗料屋ですが、腐食評価は塩水噴霧がほとんどで、カタログ等に記載する際も塩水噴霧試験結果がほとんどである。しかも、実曝との相関性が取れないのが悩みの種であったが、ねじ協同組合さんの様々な地域データと複合サイクル条件は参考にしたい」「海外への進出、生産等が進んでいるが、日本での生産、使用がそのまま通用しない場合がある。製品の使用保管を現地での風土に合わせる必要がある。製品の現地風土に合わせた促進試験が必要だと考えさせられました。」などの高評価をいただきました。

FCK法は有効な試験方法ではありますが、業界内外を含め認知度向上が課題であります。今後も様々な機会を利用し、普及促進を図っていきたいと考えております。最後になりますが、今後とも皆さまのご協力とご指導をよろしくお願い申し上げます。



講演する佐藤先生



講演会場の様子

人材開発委員会

事業報告

委員長 豊 田 裕 司
(株 巴 製 作 所)

この1年の当委員会の活動を振り返りますと、厳しい経済環境の中でも熱心に人材育成に取り組まれる、当組員各社様の姿勢を拝見することができ、未来を切り開くエネルギーが感じられます。

以下に今年度の事業報告を申し上げます。

1. 見学会（参加者25名）

7月12日に(株)ダイフクの「日に新た館」を見学し、最新の物流システムの視察を行いました。経営者の方から物流ご担当の方まで幅広くご参加いただきました。

2. 女性社員対象研修会（参加者23名）

昨年と同内容でしたが、受講者の女性社員は大変熱心に勉強、企業間交流を行っていただきました。各社に戻られ、さわやかなマナーでお手本になり、モチベーションアップされていらっしゃる、と、確信しております。

3. 技能講習会（7月から2回にわたり実施。参加者60名）

クレーン・玉がけ・フォークリフトの免許取得に際し、組合補助をしております。受講日数の少ない「経験者対象」のコースも追加開催したところ、定員を上回る反響を頂戴しました。

4. 採用活動（応募企業8社）

経済環境が厳しいためか、一昨年よりは改善しているものの、応募企業数は非常に少ない活動となりました。ただ、大学とのつながりを継続するため、実施いたしました。ご応募いただきました企業に、大学の就職説明会の情報をお届けしました。

5. 管理職対象研修（1回目参加者24名）

最新の税制改正と企業の対策についての講習会を開催しました。
3月に2回目の研修として、外国人研修制度についての講習会を予定しています。

人材委員会では新しい活動を積極的に取り入れようと、16名（2名増員しました！）の委員がたのしいアイデアを持ち寄っております。特に4月は計画を練り始めますので、組員の人材開発に役立てる活動ニーズがございましたら、ぜひご一報ください！

海外情報委員会

スペイン海外研修報告書

委員長 西 泰 宏
(西 精 工 株式会社)

海外情報委員会の今年の研修はスペイン！ 私が委員長を務めて一番少ない参加人数だったのが少し残念でしたが、結果的には少人数で良かったと思います。なぜならスペインは泥棒天国。世界遺産も沢山あるので世界NO.2の観光国（観光客数、観光収入ともに）になっていますが、泥棒にとってはお客様だらけ、そして取り締まる法律も甘いのです。なんと未成年は捕まっても説教されるだけで、すぐに釈放されます。彼らは単独で行動するのではなくちゃんと組織があり、大人が元締めをしているらしいです。実は私もバルセロナ空港のセキュリティでサラリーマン風のスーツを着た男にiPadを盗まれかけましたが、添乗員さんやメンバーの協力を取り戻しました。大人数で行動していたら、かなりの被害にあっていた気がします。スペインは料理も美味しく観光も素晴らしかったし、本当にいい国だったのですが、泥棒が多すぎです。スペイン人みんなが泥棒に見えてしまいます。スペインは人口の1割が移民で、泥棒のほとんどは彼らしいのですが・・・

最初に訪れたのはバルセロナ。スペインの街が綺麗なのは観光が売りの国なので小まめに掃除をしているからで、働くのは嫌いという説明がガイドさんからありました。我々が到着したのは夜でしたが、ちょうどバルセロナV S バレンシアのサッカーの試合が行われていました。10万人収容のスタジアムはいつも満杯で、彼らは週末に遊ぶために我慢して働くということです。仕事をうまくやろうとか、そういった意識は持ち合わせておらず、生産性という言葉自体が存在していないそうです。しかしながら、後でマドリッドのJETOROの勉強会でスペインがヨーロッパの中で2番目に自動車の生産数が多いということを知り少し驚きました。給料は多くの人が10万円くらいですが、管理職はその何倍もと、社長は100倍。なので平均すると30万円になるということ。管理職はいい給料ですが、人の面倒をみるのは嫌なので誰もやりたがらないそうです。

バルセロナといえばやはり建築家アントニ・ガウディです。バルセロナには世界遺産が10ありますが、そのうち8つにガウディが携わっていますとガイドさんの話がありました。グエル公園、サグラダ・ファミリア、カサ・ミラ、カサバトリョなどを見学しましたが、やはりサグラダ・ファミリアには圧倒されました。幾何学と美術の融合、比べるモノがない美しさです。「神は細部に宿る」という言葉がすぐに思いつきました。1882年から現在まで建築は続っていますが、完成は2026年の予定です。そのころにまた訪れたいと思います。

バルセロナでガウディの魅力に酔ったあとはマドリッドで美術鑑賞です。今回のスペイン研修ではバルセロナの「ピカソ美術館」マドリッドの「レイナソフィア芸術センター」「プラド美術館」トレドの「サント・トメ教会」を訪れ、ピカソ、ベラスケス、ゴヤ、エル・グレコ、ダリなどの名作を堪能しました。そして、世界の三大名画のうちの二つ、ベラスケスの「女官たち」グレコの「オルガス伯の埋葬」、20世紀最大の傑作とされるピカソの「ゲルニカ」を鑑賞出来たのは本当に素晴らしかったです。一番楽しみにしていたのは「ゲルニカ」、怒り、悲しみ、失望、そしてわずかな光。この表現力、構図、大迫力でいつまで観ていてもあきません。また機会をつくってゆっくりこれらの作品を鑑賞出来たらと思います。

今回はねじ工場や自動車工場などの見学は行いませんでしたが、スペインの情勢について、マドリッドのJETOROで現地の日本人に講演をしてもらいました。スペインはヨ

ヨーロッパの中ではギリシャに次いで金融危機が懸念されている国ですが、現地日系企業の調査でもビジネスの機会がかなり減速しているそうです。とはいえ、こんな時でも7割の日系企業が黒字経営出来ています。スペインはアジア市場に比べて規模は小さいですが、高付加価値な製品やサービスがより評価されるところで、環境ビジネスなどは成長し続けています。また健康志向も強く、日本食ビジネスも好調です。日本のアニメや漫画も相変わらず根強い人気です。失業率は23%ですが、なんと若年層は約半分が失業状態です。それでもどうしてやっていけるか？家族内の支え合いやアンダーグラウンド経済の存在があるからだと説明してくれました。医療は死ぬまで無料で、まさかの時にも備えがなくてもいいので、スペイン人は貯金をしません。我々日本人とは本当に考え方や制度が違います。有給は病欠以外に1カ月ありますが、病欠で休む人が非常に多いとのこと。かなりずる休みがあるらしいです。労働力の質は悪く、ものづくりでいえば日本の不具合率を1とするとスペインは10と話されていました。しかしいくら給料が安くてもその労働力の質でヨーロッパの中で2番目に自動車の生産数が多いというのは信じられません。スペインだけではありません。どこの国のものづくりを見てもそう感じます。賃金や技術の流出、円高など多くの問題がありますが、日本のものづくりが再び世界を圧巻する日が私は来ると思います。

最後の夜はフラメンコを楽しみましたが、スペインは文化・芸術においては本当に素晴らしいと思います。時間をかけてゆっくりと訪れたい国です。

それでは最後にスペインのガイドさんから聞いたねじの話。ねじが日本に伝わったのは皆さんご存じのとおり1543年に種子島に漂着したポルトガル人（当時のポルトガル国王はスペイン国王を兼ねていました）の持っていた銃からです。彼らが携えていた2挺の小銃を領主種子島時堯が大金を投じて買い上げました。時堯は2挺のうち1挺を刀鍛冶八坂金兵衛に見本として与え、その模作を命じますが、筒の部分は板状の鉄を巻いてできても、銃底を塞ぐ方法が分かりませんでした。当時の日本には、ねじを作る技術も発想もありませんでした。時堯に模作を命じられた刀鍛冶八坂金兵衛は、自分の娘をポルトガル船の船長に与えて製法を聞き出そうとしましたが、果たせないまま船は娘を連れて出帆。翌年、再び来航した南蛮船に乗っていた娘の導きでようやく製法を聞き出すことができたということです。



トレドの街をバックに



サグラダ・ファミリアの前で

カサ・バトリョ
(ガウディ作)

情熱のフラメンコ

福 利 厚 生 委 員 会

京都・天橋立と文殊堂の散策 天橋立温泉 ホテル北野屋の蟹づくしの旅

委員長 夏 原 和 哉
(株 ナ ツ ハ ラ)

組員・賛助会員企業の従業員、そのご家族の方々を対象にした日帰りグルメツアーを平成23年12月4日(日)に実施致しました。

今回は、天橋立温泉のホテル北野屋で「蟹づくしの旅」と銘打ち、蟹料理を参加者24社、132名の皆様に召し上がって頂きました。

(お申込みは180名を超え、残念ながら約50名の皆様にはご参加を辞退して頂くこととなりました。この紙面からですが、深くお詫び申し上げます。)

当日の朝は曇りがちの天気ではありましたが、全員元気よく、近鉄上本町駅から、バス3台で出発致しました。10時半頃に天橋立・文殊堂に到着しました。到着後すぐに文殊堂の近くの場所で集合写真を撮ったのですが、運悪くその時だけ雨が降り出すというハプニングに見舞われました。たぶん実行委員の私の日ごろの行いの悪さのせいだったと反省しております。日本三景の一つである天橋立は宮津湾と内海の阿蘇海を南北に隔てる全長3.6Kmの砂洲です。一帯には約8,000本の松林が生え、東側には白い砂浜が広がります。参加者はこの地でほんのひと時ではありましたが、観光気分を味わって頂きました。

その後、お目当てである「ホテル北野屋」に11時30分ごろ到着致しました。今年は蟹のフルコースをたらふく召し上がって頂こうと思い、計画致しました。季節もの、蟹刺し、ゆで蟹(一匹姿盛り)、焼き蟹、蟹の天ぷら、そして小鍋による蟹すき鍋と食べきれない量の蟹が目の前に並び、参加者の方々も満足頂けたものと思います。その後、橋立温泉の湯に浸かって頂く方もおられ、ほっこりした時間を味わいました。

お腹も一杯になって14時頃ホテル北野屋さんをあとにし、お土産屋さん「やまいち」へ。そこでも蟹が豊富に陳列してあり、皆さんがお土産として、たくさん購入されておりました。帰路中、その車内でもビンゴゲームでお土産をゲットして頂きました。

交通事情により、予定より多少遅れたものの、18時30分前に無事上本町駅前に到着し、楽しい「グルメツアー」を終えることができました。

最後になりましたが、これからもたくさんの組員様に喜んで頂ける「グルメ旅行」を企画していきますのでご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



食事会場にて



天橋立での集合写真

会 員 交 流 委 員 会

2011年度 囲碁クラブ活動報告

副委員長 中 谷 格
(東和工業㈱)

囲碁クラブの23年度は、例年通り月一回の例会と対戦後の阪急グランドビルのレストラン巡りをしながらの食事会を楽しみ、且つ市況の情報交換をした他に春・秋2回の遠征研修会を催しました。

春は6月24日・25日。奥伊根温泉、油屋別館・和亭を宿に若狭湾、養老大島の釣舟末広丸に乗船して、あこう・ガシラ釣に挑戦。

和亭は、眺望もよく露天風呂からの夕景色は、鳥の囀りも聞かれる味わい深いものでした。夕食後は、紀村氏、池田氏、神山氏、浅井氏が交互に対戦。私は森嶋氏と樫本氏へ、少しばかりアドバイスをしながらの対戦をしました。

翌日の釣は、港より1時間ほど半島の先へ出ました。釣果は各人夫々に有りましたが、例によって仕掛けから竿まで準備した、池田氏へのあこうの当たりは少なく、隣で池田氏のサポートにより、あこう、ガシラ、平目と順調に釣上げる神山氏に遠く及ばず、次第にボヤキが聞こえました。

秋は11月17日・28日。晩秋の京都を楽しむ会を催し、初めての婦人同伴の会でした。神山氏婦人と家内の二人が参加しました。

初日は、夕食の席で宮川町の舞妓さんの踊りを楽しみ、歴史のある晴鴨楼の風情と伴に祇園の遊びに興じて、京都ならではの夜を楽しみました。

翌日は一転、花園大学教授佐々木閑(しずか)先生の釈迦の教えについて、発達した科学のもとで暮らす現代人の合理的精神に、マッチする釈迦の教えの一端を拝聴しました。

インドの歴史、言語と民族、カースト、幸福の追求などについて、ご自身のアメリカ留学時代の話や、驚きのカルカッタへの初の海外旅行、今も続けておられるタイでの仏教修行のお話などを交えて、釈迦経の唯一の信者(本人の弁)としての講和を拝聴致しました。

参加者は紀村氏、池田氏、神山氏ご夫婦、樫本氏、後藤氏、浅井氏、私と家内の9名でした。

囲碁のみではなく、幅広い視野で各種の交流会を実践しています。

皆様も是非共、御参加ください。

I T 活用研究会

現状報告と検討課題について

委員長 川 端 康 弘
(株オー・ピー・ジ)

I T研究会では、現在まで各会員企業様の名簿や掲載広告支援を中心に、各委員会の予定・報告などの活動を理事会開催ごとに掲載してまいりました。

次年度の関西ねじ協同組合10周年を迎えるにあたり、I T研究会の事業につきましても大きな事業転換を視野に入れ、「組合活動データバンク的な位置づけ」より「双方向でのデータ共有型ホームページ」へと転身を検討しております。

実施テーマとしましては、現在の組合発足時に作成したホームページの一方通行型掲載事項ではなく、組合員企業・勤務する社員、使用ユーザー、または本業界の将来を担う学生などに向けた発信型のホームページへリニューアルする予定であり、現段階の検討としまして下記内容となります。

(検討内容)

関西ねじ協同組合では現在まで様々な事業を推進しており、各会員企業へ向けた活動を行っている。

特に「人材開発委員会」では、就労社員教育や各近畿圏大学との連携による合同求人、また公的資格の取得認証など。

「研究開発委員会」では、表面処理されたねじの屋外曝露寿命と加速寿命の相関図を作成する「ねじの表面処理グループ」(FCK法などの特許取得あり)、その他福利厚生面など様々な委員会を推進しているが、実際のところ対外発信手段としてはホームページへの実施結果掲載など一方通行化しており、当該企業の限定した組合員上層までの情報という点でしか未だ確立していない。

そこで取組みたい内容として、大きくは3点のプログラム機能を付加し、能動的な組合ページに改修を試みたい。

- ①ねじの研究開発レポートの運用レポート。
- ②組合企業+関西ねじ業界のチャート収集と実態把握を実施し、政府系への進言資料や産学官連携資料として活用する。(入力各組合員)
- ③各企業ごとのPR可能な組合員個々のページと、対外RSS配信とfacebookなどのソーシャルユーティリティとの連携(ニュースリリースの配信など)
- ④各会員配布物のI T掲載による費用対効果の検討。

その他では、現在理事会報告のみの掲載となっている、組合事業に関しても報告掲載・事業編集や予定などは、各組合員によって掲載とプロジェクト内容の公開を行っていただいて、ビジュアル的な掲載へと変化させる予定です。

是非この機会に、I T能力を発揮頂ける方を募りたいと思いますので、ご一報ご協力ください。

ねじ産業未来開発プロジェクト

若手社員達でワークショップを開催

委員長 中 江 良 一

(紀州ファスナー工業㈱)

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また 日頃は組合活動にご理解と多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

ねじ産業未来開発プロジェクトでは、ここ数年は(社)日本ねじ工業協会の同プロジェクトをフォローする形で活動してまいりましたが、本年度は(社)日本ねじ工業協会における活動がなく、関西ねじ協同組合として独自活動をいたしました。その内容を報告させていただきます。

1月26日にシティプラザ大阪におきまして、約30名の参加のもと「ワークショップ」を開催いたしました。

「ワークショップ」とは、Wikipediaによりますと、《学びや創造、意見交換、問題解決の手法である。参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営される形態》とあります。

今回はそのワークショップという手法を実際に使いながら、自分たちねじ業界における問題点や悩み、課題について語り合い、業界の活性化のために何をすればいいのか、という大テーマのもと、20～40歳代の若手社員の皆さんに集まってもらいました。

各グループ6名の参加者と1名のファシリテーターでそれぞれグループに分かれ、次のような小テーマについて議論されました。

- ・業界の地位向上について・・・一般者向けの工場見学会の開催、キャラクターを作る、ボランティア活動、PR活動
- ・営業活動の抱える問題点・・・価格、新規開拓等
- ・生産における課題・・・稼働率、コスト等
- ・人材育成について
- ・品質向上について・・・海外製品との差別化

参加者の皆さんは、自分たちでリーダー、書記、発表者、テーマを決めて意見を出し合い、最終的にいろんな意見をまとめあげ、発表するとう流れでワークショップを行いました。

参加者の皆さんはおよそ2時間議論し、昼食をはさみ、まとめあげ、発表と約5時間にもわたり熱心に活動されていました。その議論された内容はもとより、ねじ産業という同じ土俵でありながら、日頃会話をする機会のない人たちが会社や立場の枠を超え、年齢、経験の違う者たちが、同じ悩みや将来について、一つのテーマについて取り組むその様子を見ていますと、将来のねじ業界を支えていく人たちにとって何か業界の未来に対するビジョンを感じとってもらえたであろうと思います。また、この手法を自社に持ち帰り、活用していただければ幸いと存じます。

最後になりましたが貴重な社員さんを研修に出していただいた各社責任者の皆様と今回のワークショップに協力していただいた人材開発委員会の皆様に感謝いたします。



熱心にグループ討議

賛助会員分科会

平成23年度 活動内容

会 長 坂 元 正 樹
(サカモト工業㈱)

平素より組合員ならびに賛助会員の皆様には賛助会員分科会活動に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。賛助会員分科会の活動内容を報告させていただきます。

平成23年12月6日(火)にリーガロイヤルホテルにて第7回目になりました「情報交換&親睦パーティ」を開催いたしました。今回は174名88社(組合員102名55社 賛助会員分科会60名24社 賛助会員12名9社)の方々が参加して頂きました。第6回のパーティでは146名の参加者に対して会場が少し狭く感じた為、今回は余裕をもって頂きたいと思い大宴会場をお借りして開催いたしました。スペースがかなりあるということで、分科会員企業のカatalogを展示し会員企業の紹介もさせていただきました。

このパーティの対象者は、現場で活躍しておられる開発・製造・営業などの従業員の方々が主な対象者です。日頃お付き合いで持つことが難しいフランクな場を用意させていただき、通常のビジネスの場ではなかなかできない情報交換を行っていただきたいという願いを持ってこのパーティを開催しております。今回も多くの開発・製造・営業の方々に参加いただき分科会員一同喜んでおります。年末の「情報交換&親睦パーティ」も皆様に認知されてきました。たくさんの方々が参加できるようがんばって行きますので今後とも宜しくお願いします。

最後になりますが、本年も賛助会員分科会事業をとおり、組合員様のご発展に少しでもお役に立てるよう会員一同がんばってまいりますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



挨拶する坂元会長



多数参加したパーティ会場

K-2(関西ねじ協同組合2世会)

事業報告

委員長 豊田裕司
(幀 巴 製 作 所)

おかげさまで新規入会の企業も多く、総勢59名という大人数で、活発な活動・情報交換を行うことができました。今年度は、組合より予算を30万円に増額いただきましたことで、勉強会に組合員一般の方もご参加いただき、勉強会・懇親会も盛況でありました。また、OS会との交流も2会合同研修会だけでなく、忘年会や勉強会その③も合同で実施する(予定)ことにより、若手経営者層のいっそうの交流が得られました。

1. 勉強会その①(参加者27名、組合21名)

6月16日にマイドーム大阪にて、紀州ファスナー工業㈱の中江会長より37歳で独立されるまでの幼少期からの思い出や価値観の形成、また独立されてから現在までの55年間の様々な出来事と、ご自身の信念を大変わかりやすくお話しいただきました。講演会の後はシティプラザ大阪へ移り、懇親会を開催しました。

2. 勉強会その②(参加者32名、組合16名)

8月4日にシティプラザ大阪にて、「吉本興業 まるむし商店 東村雅夫氏による節約に関する講演」と題し、節約術についてたのしい講演をいただきました。笑いを交えた講演会のあとは、懇親会を開催しました。

3. 2会合同研修会(参加者29名、OS会16名)

10月28日から1泊2日で、京都は「がんこ高瀬2条苑」にて交流会を行い、互いの組合員の名簿を交換、活動計画の発表を行いました。当日は「京都ロイヤルホテル&スパ」に宿泊し、翌日オレンジシガカントリークラブで交流コンペを行いました。コンペでは東日本大震災のチャリティー募金を行い、赤十字に寄付を行いました。

4. 合同忘年会(参加者44名、OS会32名)

11月25日に神戸コンチェルトにて船上忘年会をOS会と合同で行いました。船内での生演奏でOS会の新代表幹事梅田社長の就任挨拶もあり、大変にぎやかな忘年会となりました。

5. 勉強会その③(参加者40名、組合60名、OS会40名程度を見込む)

2月10日に産創館にて「2014年 六角ボルトナットJIS規格改正(案)の勉強会」と題し、講習会を予定しております。

6. 旅行会(参加者26名の予定)

3月2日から1泊2日で湯の花温泉「けぶり河」にて懇親会・宿泊、翌日は亀岡カントリークラブにてコンペを予定しております。

7. 総会 4月に総会を予定しております。

K-2分科会では様々な楽しい企画を通し、活発な情報交換を行っています。当活動にまだご子息、ご令嬢を入会させていらっしゃる会員の方がいらっしゃれば、いつでもお声掛けください！

組 合 員 企 業 紹 介

有限会社 三協鉄工所

昔、大阪の九条は「衢壊」（くじょう）と書かれていた。江戸時代の貞享年間（1684年～1688年）淀川の中州だったこの地を新田開発したとき衢（みち）を切って淀川の流れを直したことから衢壊と名付けられ、その後「九条」の字が当てられたと言われています。

現在の九条は大阪ミナミの一角にあるエリアで、鉄鋼関係の中小工場（特にねじの工場が多い）や大型商業施設と昔ながらの下町商店街が混在する面白い街であります。

いまなお鉄の匂いを漂わせるこの下町の中に有限会社 三協鉄工所があります。

同社は、昭和10年1月大阪市西区九条中通1丁目にて田中鐵工所を開業、昭和20年7月大阪市西区九条南通3丁目275番地に移転、昭和23年9月有限会社 三協鉄工所に改められ現在に至っております。

田中栄史社長は昭和63年入社、専務取締役を経て平成21年9月に3代目社長として就任されました。

創業当初より熱間鍛造による六角ボルトの製造を行ってこられました。時代の変化と共に機械産業、建設、橋梁、船舶などへとねじの需要も大型化していったそうです。

現在では、小ロット多品種、特殊形状のねじ、プラント系に必要とされる高品質、高付加価値製品の生産に努めておられます。

材質はSS400・SC・SCM・SNB・SUS各種サイズはM16～M110・W3/4～W3と幅広くここまで大きいと、お思わず「デカ～」と声が出てしまうほどでした。

このように製品が大きいと自動化が出来ません、殆どの加工を手作業で行われておりました。

材料を切断機で切り、電気誘導式加熱炉もしくは重油炉で加熱した材料をフリークショナルプレスで加工するのですが、予備据え込みと成型を同じパンチ（2ストローク）で仕上げてしまうのには驚かされました。次は六角抜き、先取り、ねじ切り（旋盤と転造盤）へと加工されていきます。その一つ一つの機械は自動機ではないからこそ、技術者のノウハウと経験が必要とされる難しさがあるのだなと思いました。

田中社長は12年前から毎年、近隣の小学校3校の社会科見学を受け入れておられます。

工場の仕組み、ねじの作り方やねじの役割などを児童に伝えているそうです。

その工場見学をした児童から、一人一人の感想文を書いた紙を大きな台紙に貼ったものが届けられていました。その内容は、もの作りを見た感動と田中社長への感謝の言葉ばかりでした、それを読んでいるだけで田中社長の優しさが伝わってきました。

さて、2009年9月再び80円台に突入して始まった超円高。そのころから驚くほどの企業が海外進出し、今尚増え続いています。日本製でなければならぬという拘りを変え、現地での購買に変えると言われております。ただ価格だけでもの作りをするのではなく、熱間鍛造の原点である鍛冶職人としての技術・ノウハウを継承し、高付加価値製品を作り続けてこられた三協鉄工所さんのような取り組みが必要だと思いました。

また、数本のロットで大型ボルトを鍛造される三協鉄工所さんの様な企業は、いかなる時代に於いてもその存在価値ゆえ残って行かれるであろうし、日本の未来の為にも技術を伝承してほしいと切に願った次第であります。

この九条では、各社が連携し操業時間の厳守で、「工」と「住」とが混在する町を守る取り組みがなされていましたが、その良きリーダーとして、またねじ業界でのリーダーとしてのご活躍をお願い致します。

（樫本宏志、記）

東洋ナット株式会社

東洋ナット株式会社は、昭和50年にプレスナットの製造メーカーとして、現会長で兄の江本清吉氏と現社長で弟の江本将三氏のご兄弟で創業された。お二人はそれまでも同じナットメーカーに勤めていたが、勤務先の廃業に伴い独立することとなった。その後、ホームへの切り替えを進め、現在は自動車向けの溶接ナットなど特殊品を中心に製造し、輸出入向けで量がまとまっている半面、厳しい品質管理が要求されている。

創業時は貸工場からのスタートだったが、5年ほど後には現在地近くの広い工場に移転してきた。これも兄清吉氏（当時社長）の広い人間関係と弟将三氏の高い技術力によるものだったようだ。これをきっかけに、自動車部品の拡大展開もスムーズに進めることができた。

振り返ると、お二人は人とのつながり「縁」を感じると仰る。「運」があったとも仰る。節目節目で必ず誰かに助けられてきたと仰る。しかしその優しい話しぶりから、これも常日頃からのお二人の持つ人徳によるものだと感じる。仕事の面でも、お客さんの難しい要求に応えてきたことが次の仕事につながってきたとのこと。お二人のモットーは、無理をしない、守りが基本、冒険をしない。会社をもっと大きくするチャンスはあったはずだが、辛い時代に戻りたくなかったと笑って謙遜されるところにゆとりが感じられる。

工場は、品質には自信があると仰るだけあって、整然と機械が並び、落ち着いた雰囲気ですべての人が作業をしておられるのが印象的だった。「品質は工程で作り込む」という基本通り、全数検査はせず、管理限界を設定して予兆管理をしっかりとやっているとのこと。また、切粉除去装置を自社開発したり、夜間も無人生産できるよう改善をしたり、そういった面での管理コストは結構かかっているらしい。

5Sという一般的な言葉ではなく、長年、会長と社長が心掛けてきた思いが自然と表れているような現場で、床から機械まできれいに磨きあげられている。そして、最後に社長が仰ったモノづくりへの愛情が伝わってくる言葉が印象的だった。

「きれいな油を使ってやると、ちゃんときれいなナットができるんですよ。そんなナットは後で洗ってやらなくてもいいんですよ。何年経っても錆びてこない。やっぱり機械が汚れないようにしてやらないと・・・」

外に出ると、事務所の裏には八尾空港の滑走路が広がっている。横にある自家製の水槽には見事な鯉が泳いでいる。隅には菜園の葉が見える。何やら工場地帯の中にいることを忘れるようなひと時だった。

（森嶋 勲、記）

株式会社 大和螺子製作所

12月の中旬、近畿自動車道の岸和田インターを降り、真新しい住宅地の町並みを通り抜け、ある角を折れると、岸和田と発祥された当時の名残を思い出させる、そんなところに株式会社大和螺子製作所があった。

同社は昭和12年に大阪市内で紀村政雄商店として創業され、昭和16年に堺市に移られ株式会社大和螺子製作所を設立、昭和50年に和泉市に工場と営業所を集約されて現在に至っている。

工場は敷地面積800坪に効率よく配置され、仕掛品や製品はところ狭しと、つぎの工程を待っていた。また、朝一番に訪れた私達を忙しそうにされていた社員さんたちは皆、気持ちよく挨拶していただき「元気のある会社だ」と、第一印象として感じた。

この後、紀村社長と紀村部長に同社の沿革や歴史的な背景を伺った。もともとは、切削での生産から始まり、現在はヘッダー加工からフォーマを主とした工場へと、時代の流れに適した会社の変貌を遂げてきたようだ。製品に対しても、昭和49年ごろのオイルショック時の製品価格の高騰や、海外製品との競争の激化に伴って、市場流通品から特化した製品の生産へと舵を切られ、常に顧客のニーズにあった物に特化し、市場流通品については一切作らないというこだわりがある。主に、自動車関連の重要なパーツを図面から生産されており、これらが主力商品として月間の生産数量200トンのほとんどを占めているようだ。

工場内を見学させて頂くと、フォーマ約10台、タッピング機械約30台、ローリング約5台の設備は整然と配置され6mmから12mmまでのフランジナット、ウェルドナット、フォーマによる特殊品などを作り出している。また併行して材料の管理から出荷に至るまでの全工程において、独自のソフトによる管理システムを用いて、よりよい品質の向上に努められている。

特に、タッピング機械の横の掲示板には、各機械、各作業者のクレームと不良品の発生実績を一年間を通じて表に表し、作業者に対しては注意の喚起と、経営者に対しては設備や修理の必要性を考慮させるように、それぞれの立場から妥協を許さない環境を自ら作り、日々努力する、そんなところに同社の強さを見た気がした。

最後に、紀村社長から、「うちは、社員の定着度が良い。」と、おっしゃった様子から、自分らしく前に向かって、また人を尊重するという経営理念が、社員にとって励みになり指示待ちの人がいない社風を作り出しているのだろう。きっと、これからも社員全員が目的意識を持って取り組んでいく姿勢は変わらないだろうと感じた。

末筆になりましたが、紀村社長と紀村部長には、師走のお忙しい中、大変丁寧にご対応頂き誠に有難うございました。

(木田能風子、記)

有限会社 三協鉄工所



田中社長



本社工場社屋

東洋ナット株式会社



江本会長(右)・江本社長(左)



工場建屋

株式会社 大和螺子製作所



紀村社長(右)・紀村営業部門長(左)



工場建屋

行事経過及び予定一覧表

月	日 付	内 容	主 催
9	8 日	研究開発委員会 幹事会	研 究 開 発 委 員 会
	22 日	税制改正に関する講演会	人 材 開 発 委 員 会
10	5 日	ねじ産業未来開発プロジェクト 会合	未 来 開 発 P R J
	7 日	研究開発委員会 定例会合	研 究 開 発 委 員 会
	18 日	理事会	総 務 委 員 会
	25 日	賛助会員分科会 幹事会	賛 助 分 科 会
11	4 日	研究開発委員会 幹事会	研 究 開 発 委 員 会
	10 日	女性社員対象 ビジネスマナー研修会	人 材 開 発 委 員 会
	24-25日	資格制度講習会 [(社)日本ねじ工業協会との共催]	資 格 制 度 委 員 会
	29 日	理事会	総 務 委 員 会
12	4 日	日帰りグルメツアー	福 利 厚 生 委 員 会
	6 日	情報交換&親睦パーティ	賛 助 分 科 会
	21 日	人材開発委員会 会合	人 材 開 発 委 員 会
平成24年 1	11 日	新春互礼会 [大阪鋌螺卸商協同組合との共催]	総 務 委 員 会
	23 日	ねじ産業未来開発プロジェクト ワークショップ	未 来 開 発 P R J
2	3 日	研究開発委員会 定例会合	研 究 開 発 委 員 会
	10 日	ねじ製造・技術展示会	賛 助 分 科 会
	14 日	理事会	総 務 委 員 会
	19-26日	海外視察	海 外 情 報 委 員 会
	27-28日	クレーン運転業務特別教育	人 材 開 発 委 員 会
3	27 日	研究開発委員会 定例会合	研 究 開 発 委 員 会
4	24 日	理事会	総 務 委 員 会
5	29 日	第10回・通常総会	総 務 委 員 会

広 報 委 員 会

「結」の送付部数の削減に関する アンケート結果の報告とお願い

委員長 檜 本 宏 志
(㈱三和鋳螺製作所)

関西ねじ協同組合の機関誌「結」は平成14年12月の創刊から9年が経過し、平成23年8月には第21号目を数えるまでになりました。その発行部数は毎号600部にのぼり正会員・賛助会員（合計207社）に送付しております。

しかし、紙面価格の高騰、発送に係わる事務処理軽減、郵送費削減を考慮し、広報委員会では送付部数の削減を検討させて頂きました。

加えて、組合ウェブサイトからPDFデータをダウンロードできる配信方法を新しく取り入れ、組合員企業の皆さまの利便性の向上も計れると考え、皆さまからのアンケートの結果に基づき、今回の「結」より実施させて頂きました。

(アンケート結果：2011年11月21日現在)

ア ン ケ ー ト 集 計				
1	2	3	4	未回答
現状の送付部数を希望	ダウンロードはしないが部数を減らしても良い	ダウンロードを利用する為、部数を減らしても良い	ダウンロードするので紙面は要らない	その他未回答は1社1部
1 3	2 2	3 8	1 4	1 2 0

皆さまのご協力により、現行発行部数600部を改訂後250部へと減らすことができましたが、未回答企業が120社ありましたので改めてご協力をお願いする次第であります。

改めてPDFダウンロード配信によるメリットとアンケート用紙を書かせてもらいます。

- 従業員へのメール配信が可能となり全員へ行き届くようになります
- 電子データのため紙ゴミを削減しエコロジーです
- 電子データの場合、ファイリング不要のため保管管理が容易です
- 紙面での回覧と比較すると短時間で社員全員と共有できます

つきましては下記のアンケートをコピーして組合事務局までお送りください。

未回答企業様のご意見をお聞かせ頂きたくアンケートにご協力をお願い致します。

(FAX：06-6975-2181)

ア ン ケ ー ト	
企業名	
結の送付部数の削減並びにPDFデータダウンロードに関して下記からご選択し○印をご記入ください。 1. 現状の送付部数を今後も希望 2. ダウンロードを利用するため、紙面「結」の送付は今後不要 3. アンケート未回答企業様については、「結」の送付部数を1部とさせて頂きましたが、次回から元の部数に戻してほしい。	

事務局より

組織変更

東京タッピングマシン株式会社は、去る平成23年 8 月28日、会社組織を有限会社から株式会社に改組し、9 月 1 日より「東京タッピングマシン株式会社」へ社名変更致しました。

代表者の変更

東京タッピングマシン株式会社

平成23年 9 月、代表取締役会長に島津勝芳氏が、代表取締役社長に島津孝治氏が就任されました。

株式会社ヤリステ

平成23年11月、会長に山田晴久氏が、代表取締役社長に久保慎二氏が就任されました。

株式会社信光ステンレス

平成23年12月、取締役会長に西居厚氏が、代表取締役社長に西居慎一郎氏が就任されました。

XX

編集後記

NHKスペシャル「天空の棚田に生きる」を見て

ベトナム国境に近い中国雲南省の紅河流域に世界最大級の大棚田地帯がある。1300年前にハニ族という少数民族がチベットから逃れ、この地で棚田を開発し、今も引き継がれている。最大勾配75度にもなる斜面を、標高1800mまで切り拓いた。総面積5400ヘクタール(54km²)、田の標高差500mにわたり積み重なっており、段数は1500段を越え、田の枚数は300万枚全て人の手で作りあげ、今も人の手だけで米を作っている。

これだけの棚田を支えている水は、棚田で発生した蒸気が温かい風により霧となり、山上の森に遮られ、水滴となって村、そして棚田へと戻っていく還元作用があるからだ。水の分配は公平を期して分けられており、米作り、棚田の畦作りなど、一箇所でも棚田が荒れたり崩れたりすると、他の棚田に影響が出て全てが崩れていくから、手間を惜しまずに棚田を守っているのだ。だから、彼らには自分だけ良ければいいという「我田引水」という言葉はないようだ。

自分の置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝こうとする考えは、これからの日本にとって重要な思想ではないでしょうか。(広報委員長 樫本宏志)